

7 福岡県保育士・保育所支援センター

福岡県保育士就職支援センター（以下センター）は福岡県から公益社団法人福岡県保育協会（以下保育協会）に委託運営されている。無料職業紹介所として平成25年7月1日に開設し、保育協会職員は8人、うち2人がセンターのコーディネーターとして配置されている。コーディネーターは保育所所長経験者とハローワークの嘱託相談員経験者である。2人のコーディネーターのうち、1人はセンター業務の強化のため、平成26年5月から新規で採用した。センターは福岡県総合福祉センター（クローバープラザ）内の保育協会の一角で開所しており、開所時間は月曜日～金曜日の9時～17時である。センターの運営に関しては保育協会の主導の下、福岡県福祉労働部子育て支援課と随時連携を取りながら業務を推進している。

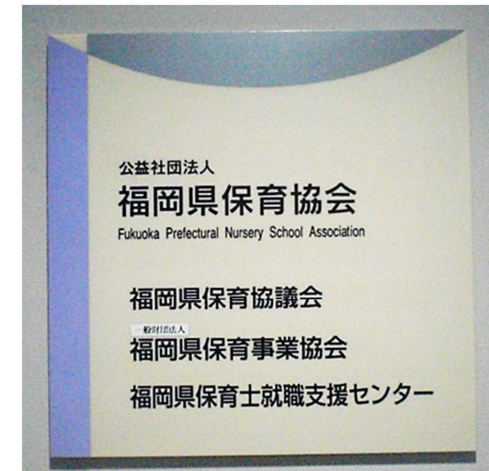
1 センターの取組内容

センターの主な業務は求職・求人登録、相談業務、保育所の紹介・あっせん、県内ハローワークでの出張相談、保育士養成施設の学生への就業支援等である。保育協会が受託運営している利点を活かし、県内の保育施設に対して、潜在保育士をはじめとした保育士有資格者（見込者含む）の就労に関する支援全般に取り組んでいる。保育協会は県内の2市（北九州市・福

岡市）を除いた537の認可保育所（公立：110、私立：427）で構成されている（平成26年4月時点）。

保育協会では、「保育士・保育所支援センター事業」に先がけ、平成23年度より潜在保育士研修を福岡県から業務受託して運営している。また平成26年度から県内のハローワークに赴き、出張相談会を実施するなどセンター業務の広報周知に積極的に取り組んでいる。

【福岡県保育士就職支援センターの入口看板
福岡県保育協会内に設置されている】



(1) 就職相談の実施

就職相談は定例実施と臨時実施を設定している。定例実施はセンター開設時に来所と電話で対応しているが、県内は広域なため電話による相談が多い。臨時実施は平成26年9月から福岡労働局の協力を得て、県内6地域のハローワークの会議室を会場として11回の出張相談会を実施している。ハローワークとは求人情報の共有など連携を進めており、求職者が双方の機関を利用できる体制づくりに努めている。

(2) マッチングの実施

センターでは保育士の求人・求職登録（保育士）を行い、コーディネーターがマッチングを行っている。平成 25 年度は求人登録 82 件（207 人募集）、求職登録 54 人、平成 26 年度 9 月時点は求人登録 73 件（178 人募集）、求職登録 24 人だった。求人登録をする事業所が多数に上るのは、保育協会が運営主体であることからセンターの事業内容に関する理解が得られやすいためと思われる。

マッチングは求職者の希望に合致する求人案件を紹介するほか、求人情報は保育協会のホームページに掲載されており、求職者が求人情報を閲覧し、検討、センターに連絡、紹介に至るようになっている。平成 27 年度以降の子ども・子育て支援新制度に関連し、幼稚園教諭経験者が求職登録する傾向がある。

採用に至った求職者には、適宜、コーディネーターが就職先に出向き、求職者から直接近況を聞くフォローアップを実施している。保育協会を通じた保育所との関係性を活用し、採用後の就労状況（サービスや保育への取組）の情報を得ることができると、柔軟な対応を取ることができる態勢にある。

【センター内 面談実施スペース】



(3) 研修の実施

対象者の希望地域にある保育所において体験実習をする研修は、ブランクの不安や保育現場の未経験をフォローし、就業へ結びつける機会となっている。平成 23 年度から取り組んでいる「潜在保育士研修事業」は、福岡県が委託する関連事業として、保育協会が実施している。平成 23 年度、24 年度の研修内容は座学を中心とした保育所保育指針、倫理綱領と保育所体験実習であったが、平成 25 年度以降は保育所実習のみに変更され、保育士として迅速に現場復帰できるよう配慮したプログラムになった。

実習は定期実施と随時実施（日程希望可）とし、利便性を考慮している。定期実施は県内の 4 地方を実習地域とし、日時を限定した開催であり、随時実施は受講生の希望に応じて地域、日時を設定した運営である。10 時～15 時の 5 時間の実務で保育現場の業務や雰囲気を知ることがを目的としている。離職中の受講者には現場復帰への動機付けとして「勤を取り戻す」契機となり、保育士未就業者には保育現場の実務を知る機会となっている。

実習者を受け入れた保育所は実習報告書を保育協会へ提出する。各保育所の提出書類から一部引用し、3 ページ左表に示した。施設見学、概要説明、保育補助、給食、園児との遊び、行事参加等を各保育所の実情に応じて実施している。実習者は 40 代前後の保育士経験者が大多数であり、実習後、3 割近くが現場復帰したとのことである。

【潜在保育士研修会 実施保育所(園)及び実習内容 平成25年度前期】

月日	実施施設	参加人数	実習内容
10月1日	青葉桐の花保育園	1	1、2歳児クラスに入り食事、排泄、睡眠、遊びの様子を観察しながら子どもと関わる
	青葉保育園	2	午前中に園の概要説明をし、クラスごとに見学/午後は園の保育内容説明
10月15日	若竹保育園	1	園長との談話後、1、2歳児クラスで外遊び・給食・午睡、5歳児クラスで外遊び、レクリエーション/園長、主任と感想会
10月16日	赤間保育園	1	園の概要説明後、全クラス見学/2歳児クラスで保育補助、生活補助
	篠山保育園	2	園の概要説明、実習にあたっての心構え/施設見学・簡単な反省会・求職登録への依頼
10月17日	いそどり真愛保育園	1	前年度にも参加していたため概要説明等は省略、参加者の希望するクラス(0歳児)に入り保育士体験
	原田保育園	1	概要説明(デイリープログラム・行事・開園時間等)、2歳児クラスにて見学実習
10月18日	開保育園	1	朝の集まり、園庭での避難訓練/年少クラス、他クラス見学
10月22日	コスモス保育園	1	年長クラスに入り、焼き芋大会の準備、開催
10月23日	タンポポ保育園	1	園の概要説明/0、1歳児クラスにて実習
	わらしこ保育園	1	実習説明、園の概要説明(園長)/各クラスの保育見学と説明(主任)/参加者希望による乳児保育室での実習/年長児クラスでの給食交流(配膳、食事、片づけ、食後の自由あそび)/感想

【保育士有資格者現場復帰促進研修会の実績】

年 度	実施箇所数	参加者数	再就職者数	就職率
平成23年度(座学・実習)	15	124	31	25.0%
平成24年度(座学・実習)	8	87	25	28.7%
平成25年度(実習のみ)	17	22	5	22.7%
合 計	40	233	61	26.2%

2 センター運営の特徴・工夫点

コーディネーターに保育所所長経験者を配置している強みを活かしたマッチングである。求職者に関して、若年層は正規職員希望が多いが、離職者を含む潜在保育士は非正規職員、パートタイム勤務の希望者が多い。コーディネーターは保育現場に精通しており、求職者と求人者に対する細やかな相談対応をし、勤務条件の調整を図っている。条件面の適切な調整が、高い採用割合に結びついている。工夫点としては、求職登録者の増加を目的とした他機関との連携を推進している。福岡県社会福祉協議会の「福祉の職場説明会」に相談窓口を設置し、相談活動を行っている。また、ハローワークにおける出張相談会の参加者や潜在保育士研修事業の受講者をセンターの利用者として勧奨する取組などを積極的に推進している。

3 センター運営の実績

センター運営事業の実績として、就職決定者は累計55人に

上る（平成25年度：43人、平成26年度（～9月）：12人）。採用割合として平成25年度は96%（紹介数：45件）、平成26年度は86%（紹介数：14件）といずれも高い確率で採用に至っている。

【登録数と採用数の状況 平成25年7月～平成26年9月】

年 度	求人登録者数		求職登録者数	紹介数	採用数
	保育所数	募集人数			
平成25年度(7月～)	82	207	54	45	43
平成26年度(～9月)	73	178	26	14	12
合 計	155	385	80	59	55

4 センター運営の課題

課題としては、求人登録件数に比較して求職登録件数が少ない点である。求人数に対して紹介、あっせんできる求職者が限定されるため、登録求人情報が滞留している。また、広報周知に関連し、県内でのセンター利用状況の地域間格差が大きい。都市部での需要が高いのは、その切実さを反映していると思われるが、県からの委託業務であることを鑑みると県内全域での事業周知によるセンター利用者の増加が求められる。

また、保育士養成施設に向けた事業協力や施策の設定に課題がある。保育士資格取得見込者を含む新規採用の学生に向けて、どのようにすればセンターを活用するかという点を踏まえ、養成施設に対する事業促進が必要とされる。

【福岡県保育協会のホームページ「就職支援案内」で福岡県保育士就職支援センターの事業案内をしている】

